

# 令和元年度 琴浦町事業レビュー（1日目） 評価結果及び意見一覧

## 1. 実施日、対象テーマ等

実施日	対象テーマ	町民評価員
【1日目】 令和元年 10月12日(土)	地区公民館事業 (関連：輝く地域づくり事業)	29人
	斎場管理	29人
	地域おこし協力隊活動事業	27人
	交通費助成事業	27人

## 2. 評価基準

評価	評価の選択基準（評価理由の例）
(1)不要・凍結	税金を使う必要なし（事業の廃止） 事業廃止を含めてゼロベースで見直す（事業の一時凍結） 事業の目的が既に達成されているため不要 事業予算を執行することが目的となっているため不要（手段が目的化） 事業の効果なし（薄い）・逆効果 サービス受給者の自助努力・自己負担 行政の役割終了、民間実施（税投入の必要なし）、他事業との重複 広域（国・県など）でのサービスであるべき など
(2)琴浦町改善	
(2-1)抜本的見直し	実態を把握すべき 効果が不透明 成果の捉え方を再検討すべき 事業の手法を大きく見直す必要がある 民間委託の実施・拡大をすべき（指定管理者制度を導入すべき） など
(2-2)一部見直し	継続すべきだが、規模を縮小すべき 事業の手法の一部改善が必要 受益者が負担等をすべき 入札等における競争性を強化すべき など
(3)現行通り又は拡充	大幅な見直しは必要ない 効果があるため、より注力すべき 今までのやり方のままで、さらに事業費を増額すべき など

## 3. 評価結果 [ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価

事業名	(1) 不要・凍結	(2) 見直し	(2-1)	(2-2)	(3) 現行通り 又は拡充
			抜本的見直し	一部見直し	
地区公民館事業 (関連：輝く地域づくり事業)	1	26 [4]	17 [4]	9	2
斎場管理	3	23 [4]	10 [3]	13 [1]	3
地域おこし協力隊活動事業	10 [3]	13 [1]	11 [1]	2	4
交通費助成事業	1	22 [4]			4

### 交通費助成事業の「見直し」評価の内訳

助成制度	廃止	現行通り	見直し	拡充
4-a 交通空白地タクシー助成	4	2 [1]	15 [3]	1
4-b 外出支援タクシー利用助成	2	1	17 [4]	2
4-c 腎臓機能障がい者交通費助成	0	13	8 [4]	1
4-d 重度障がい者タクシー料金助成	1	10	11 [4]	0
4-e 作業所等通所障がい者交通費助成	2 [1]	3	17 [3]	0

地区公民館事業 【関連事業：輝く地域づくり事業】		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	1	
(2)見直し	26 [4]	
(2)-1 抜本的見直し	17 [4]	<p>役場の考え方を抜本的に見直しが必要。簡単なことを難しく考えているし、根本的な考え方が住民とずれている。事業ありきと取れる。親和性のある事業については、融合することによって無駄が省けるし、有効に使える(税金も含めて) 廃校舎の利用は、とてもいいと思います。小学校の運動会と地区運動会を同日(AM小学校、PM地区)にしてはどうか?出席率も良くなる「むすぶ、つどう」。町小学校合同の鼓笛隊の発足をお願いします。(楽器に触れたり学んだりする機会が少なく、音楽を聴いたり、楽器を演奏する楽しさや素晴らしさを子どもたちが体験できる場を) 輝く地域づくり事業を地区公民館事業の中に入れる 公民館の統合、あり方を検討すべき。公民館事業の費用対効果が不透明。各公民館利用状況にバラツキがある。もっと町として地域活性化のための方策を行うべき。公民館運営が見えにくいので、もっと住民に対し広報をするべき 公民館事業の目的を再確認すべき(地域振興協議会などの要望を捉えていない) 自治行政という面から廃止はできない。時代の変化の中で区割りを見直すこと(中山間地域は同じ問題点を抱え、里部、沿岸部などの特色別に再編すべき)。役員体制も幅を広げて充実させるべき。公民館の役割をもっと明確にしていくべき 地区公民館事業と輝く地域づくり事業は親和性があるので共有した方がよい。公民館事業の現状は、趣味のサークルではないか。税金の有効的に使うべき 公民館と地域振興との事業連系や一本化が必要 社会教育、地域づくり等を一体化して考えるべき(公民館を社会教育施設と考えるべきでない(利用者は限られているため、利用の多様性を考えるべき)。地域は一つ、目的は一つ 審議員が言われたことに納得することも多いですが、地区公民館は地域のことを思うと今の数の方がよい。ただ、ハード面として移れるものはすぐにでもしたらよい 各公民館で各々が必要とするものは不要(図書等は、町営図書館があり、まなタン号があるので不要)。公民館婦人部に入っている人は少ない 公民館に行くことはほとんどない 文化教養、高齢者向けのまなタンがあるのでそこに移動し、民間に委託した方がよい。家庭や青少年は一本化の方がよい。同和教育は公民館事業から切り離し 利用者が固定化されている 公民館事業も輝く地域づくり事業も必要なものである。2つは将来的に重複の可能性が濃いので機能、場所を合体すべきである 地方創生時代に今の公民館事業は時代にそぐわない。公民館は、人口減少、少子高齢化の難問に挑む地域住民自治の最前線とすべき</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b></p> <p>輝く地域づくり事業と場所と内容の一体化を進める必要がある 社会教育法に基づいた「公民館」では、町民の様々なニーズに対応できないと思う。地域課題を解決するための住民に最も近い位センターとして、機能するよう枠組みを取り払う必要がある。社会教育という目的がなくても今やっている事業はできる。センター機能のためには、むしろ職員(福祉系)の増員も考える 公民館の本来の目的に照らし、輝く地域づくり事業との合同、一体的活動を展開する必要があると考える。これによって効果が大きくなる。以西地区の公民館は小学校に移転し一体的事業展開を図る(結果としてコスト削減が可能) 以西地区において「地区公民館事業」と「輝く地域づくり事業」の両方の目標(成果)を統合整理して、対象地区、実施主体、実施拠点の一本化をすぐに始める(スピード感で言うと11月中にでも)。地域振興協議会のない地域でも機能拡大、特化、コスト削減をしていく。</p>
(2)-2 一部見直し	9	<p>地区公民館事業は必要なので、事業の手法を改善してこれまでどおり実施 地区公民館事業と輝く地域づくり事業をあわせて事業をすることを願う 自己負担割合を見直す 継続すべきだが2つの事業について検討すべき 公民館の必要性がわからない(公民館を利用している人は一部の方だけ) 輝く地域づくり事業(中山間地域)を実施している地区と他の地域とが同じにできるとは思わないが、一部改善は必要 公民館のセンター化(中央公民館)し2箇所(赤碓、東伯)で運営していく 公民館と地域住民主体の団体とがもう少し連携が取れていた方がよい(地域に委託できるものは任せてもよい) 昨今、自然災害も多いので防災(共助)の取組なども連携してやって欲しい 学びを還元できるシステムができるとよい 地域のリーダーになるような人を育てて、その人を中心にしたイベントや教室を公民館でできるようにするとよい 将来は、2つの事業が一緒になってもよい 各公民館で活動に差がある(9地区の公民館が必要なのか)</p>
(3) 現行通り又は拡充	2	<p>「つどう、まなぶ、つなぐ」場である公民館は、地域コミュニティの中心あるいは民主主義の基礎単位として欠かせぬ組織であり、今後も維持する必要がある。ただ、厳しい財政状況、人口減等の事情に照らすなら、地域振興協議会、民間団体との関係の見直し、諸行事の量の見直し、役員の負担軽減などの事業の整理、スリム化、効率化が必要 公民館事業は地域の中核である。問題があるとすればその優れた機能が生かし切れていないこと。地域活性化協議会が生まれ、地域を守る意識が生まれたのも地域の安定があって、考えるべきなのはより地域の皆さんに還元できることが大切</p>

斎場管理		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	3	毎年、多額の費用がかかるようになってきているので中部ふるさと広域に統合した方が良い 近い将来、中部ふるさとと統合すべき ( ただし、赤碕地区の住民感情を配慮 )
(2)見直し	23 [ 4 ]	
(2)-1 抜本的見直し	10 [ 3 ]	<p>町独自で進める場合の全体コストと中部ふるさと広域に加入したときのコストの比較を明確にすべき。将来的には、町の施設を廃止した方が良いと思う ( おそらく中部ふるさと広域と統合した方が管理費が安くなる )。中部だけでなく西部広域の加入もあわせて検討 ( 赤碕の人は西部の方が時間的に近い ) 中部広域との統合を協議・検討した結果が必要 実態を把握すべき。使用料を上げる 詳細なコスト計算ができていないので判断はできない。早急にコスト計算比較 ( 維持又は等々 ) を提示し、検討すべき 中部ふるさと広域と合併するのが良い 今後の人口、年齢動向等を考慮し対応を検討すべき。他と比較しても使用料の見直しを検討すべき 中部ふるさと広域の施設を利用したことがあるが、明るい場所で食事も取れるよい施設であった 欠かせぬ施設であるが、中部ふるさと広域への統合が必要。使用料は連動して値上げをせざるを得ない ( できれば所得等に応じた軽減措置が確保されることが望ましい )。葬儀の集中、偏りに伴う不効率を避けるための料金設定策も必要 今の場所のままで中部広域行政管理組合に管理運営を任せる ( 無償譲渡 )。使用料を中部ふるさと広域と同じにする 人口減少が進む中で、中部ふるさと広域との統合は考えるならば早い時点での統合を進めた方が良い ( 修理にお金を使うよりもよい )</p> <p><b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b>                  継続するか、中部に統合するか判断を急いで行う必要がある。継続する場合は、葬儀もできるように充実させる選択肢もあるのでは 今後の需要予測、近隣のキャパシティ、コストなど時間軸と空間軸の需要供給の関係性を分析し、早急に今後のプランを検討し、結論を出すべき 長期維持に必要な修繕計画の精密なものを提示。料金改定を必要経費をベースに早急に改定。他町からの積極的に受入。サービス内容の充実。需要予測が必要</p>
(2)-2 一部見直し	13 [ 1 ]	<p>先を見据えて、通夜、葬儀、火葬とが一緒にできる施設を考えて欲しい。火葬場は近いところが良い 料金見直しは必要 ( 町の提案額 )。メリット、デメリットを考えれば現状通りが望ましい。今後、制御盤一式の更新の前に費用対効果等を考え、統合に向けた方針を決めるべき 基金の積立などにより早めにお金を集めることを考えるべき 町に火葬場はあった方が良い ( 統合は考えなくてよい )。使用料は値上げも仕方が無いが段階的に値上げをしてはどうか 物価の上昇もあり、使用料の値上げは仕方ない。通夜、葬儀、火葬が一箇所で行えるのは、すごくよい 施設は継続し、使用料アップはやむを得ない。葬儀のあり方を考える PR をすべき ( 葬儀、墓の考え方が変わりつつある ) 今すぐ決められないので、とりあえず修理するという感じがある。直したのに結局無駄になったということにならないように。町外を利用することへの助成をすればよい 使用料の見直しは必要。斎場はこのまま利用したい 使用料の見直しは必要。炉の増設はしなくてもよい 中部ふるさと広域との将来を見つめて相互利用について見直し 町としての考え方 ( 方向性 ) を決めてから話を進めて欲しい。検討資料は審議員の助言を活かして再整理。使用料は中部ふるさと広域にあわせてもよい。</p> <p><b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b>                  収益事業としての方向性を探る ( 葬儀場 )。ただし職員の採用など経費が増えるようなら廃止を検討する ( 修繕するまでに )</p>
(3) 現行通り又は拡充	3	需要がわからないのでなんとも言えないが、今は安全に稼働できるよう対応してもらえたら良い 値上げの再検討

地域おこし協力隊活動事業		
評価	評価に添えられた意見	
(1) 不要・凍結	10 [ 3 ]	<p>定住することが成果とすることではなく、影響力（効果）はどうかなどを検討すべき。交付税ありきの事業のように思われる。地域の若者でできないか。地域の若者を定着・定住させる方策を考慮すべき。アウトドアのコーディネートなど地元の人材をもう一度見直して欲しい。違う角度から見て地元民では気付かない点もある。町は町民の意見・アイデア等を聞き入れる姿勢を示して欲しい 来た方の趣味で事業内容を決めているのなら地域の方が良い 目的を明確にすべき。隊員を見ていると正直、遊びに来ているのかと思うことがある。回収計画（事業効果）まで考えた方が税金が有効活用される。I J Uターンの数は把握した方が良い。継続するならば、事業を「琴浦版」に見直し 成果、目的がはっきりしない。定住を目的とするならば鳥取市を参考に 町としての的を絞った奥深い施策を集中して実践すべき。現状は効果が無い 地域をもっと考えてください（地域のことを考えている地域の人のこと） 地域の人を呼び込むより都会へ行った人が帰りやすい町に。協力隊は本当に定着しているのか 熱中小学校も他地域の人の企業応援ばかりしていて町の財政が潤うのか。自分たちのレクリエーションのために来ているだけのように思われる</p> <p><b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b></p> <p>一度、白紙にして琴浦町らしい仕組みは何か考えて欲しい 町として地域おこし協力隊員にやって欲しいミッションを明確にする。効果測定、指標を明確にする。国（総務省）のスキームに単に乗った印象。一度、ゼロベースにし、町全体のビジョンの中での施策としてこのスキームを有効に活用すべき。目標を設定し、効果の測定をきっちり行う。有効性がなければ、あえてこの制度を使うべきではない</p>
(2)見直し	13 [ 1 ]	
(2)-1 抜本的見直し	11 [ 1 ]	<p>目標、目的を再検討 事業の手法を大きく見直す必要がある 事業は必要であると思うが優遇するのではなく、興味のある人を募集しそこに税金を使うべき 税金を使ってまで地域おこし協力隊が本当に必要なのか 利用できる国の制度は利用したら良い（国のパラマキはその程度の結果しか生まれない） 他地域からの募集者より、地元にいる若者、高校生等に働きかけて耕作放棄地等を利用して就農者を増やす（協力隊に支払う賃金を、就農を目指す人に支払うようにしたら農業を目指す人が増えるかも） 協力隊に限らず農業や漁業を目指してきたの方がやる気があるのでは？職員採用は臨時職員も含めて公平にやらなくてはならない。効果を町民に情報発信して欲しい 制度を使うことで活性化している面もあると思うが、主体性の面が見えないので、今一度考える必要がある。地元へ残る若者には何の手立てもない。 地域おこし協力隊に町として求めるものを明確にし、それにどう答えたかという評価をすべき。当該制度をいかに町として効果的に活用すべきか改めて検討すべき。もっと町民に対して効果を周知すべき。元隊員の今後のフォローアップも必要 成果を再検討すべき。町内の若者に対する不公平感がある。外部からの人が町内に入るのは良いと思う 効果が不透明で、目に見える成果がない。</p> <p><b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b></p> <p>「地域の元気」を定量的に評価する工夫が必要。町として呼んでくるのであれば、その人が住んでいる地域だけでなく、町のあちこちの地域が元気になるような取組をした方が良い。都会に偏在する税を地方に戻すという意味では、「地域おこし協力隊」という制限のあるものではなく自由に使える方が良い。</p>
(2)-2 一部見直し	2	<p>国が制度を作った際、町として手を挙げないわけにはいかない。東京に人が集中する中、地方をなんとかしよう創った制度で使う必要はある。 この事業に何を求め成果をどうあげるのか、人材をどう活かすかを担当課がしっかり人材を管理して有効活用した方が良い</p>
(3) 現行通り又は拡充	4	<p>地方の衰退ぶりは、きれいごとでは住まないくらいまで進んでいると実感する日々で、地域が一体となつたり構わずいろいろな施策を講ずることでは道は開けないか、本施策は有効策の一つで維持すべき。国であれ、地域であれ人は宝で、琴浦町へ新たに転入して来られる方を大切にしていこうという雰囲気が必要 今後も継続していくのが良い 効果測定は大切であるが、すぐに効果が出せる人は少ない。人を育てること、良くも悪くも育てた人に学ぶことができるのではないか。時間はかかりますが、その人の姿を見て戻ってくる思いを持つ町民もある この制度が続く限りやったら良い。協力隊の活動内容を町報にもっと載せて町民に知ってもらおうべき</p>

交通費助成		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	1	自己負担すべき
(2)見直し	2 2 [ 4 ]	重複の確認と検討、利用者への周知徹底を認識して下さったことがよかった 助成は必要、制度等見直しは必要(制度統一)。制度が多く分かりにくい。全てに対応できる要領があれば良い(個々に要綱は不要で一つにする) ややくしくて分かりづらい スクールバスを廃止、学生も路線バスで通学。防犯を考えてバス通学の範囲を広げる バス代は物価が上がっているのので 200 円に値上げ 運転手に 30~40 代の女性ドライバーを起用 そもそも複数の課が担当しているという問題点がある 重複や制度に一貫性がないので再度見直し検討 通院、外出の区分を付けずタクシー券を出す 自己負担と町の助成金の見直し。事業としては継続すべき
4-a 交通空白地タクシー助成	廃止	4 営業していた企業がコストがかかるためやめたのにコストが高いタクシーを使用するのはどうかと思う。審議員が言っていた協力隊や町職員が運転する方が良い バスルートを見直して、空白地をなくす バス交通を試験的にでもいろいろな手法を行う。以前からやっていたからと言うのは理由付けにならないが、ガーデンヒルズ、立石台は八橋駅に近いのでは? 全体の助成制度の中に組み入れて廃止する
	現行通り	2 [ 1 ] <b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b> 公民館もなく、地域振興施策の知恵も乏しい、受益の公平性という面から見ると他の地域よりは支援は手厚くてもよい。
	見直し	15 [ 3 ] 部落によってはバス路線でもバス停が遠く、バス停に行くのが困難な方が多くなっている。バスの小型化により部落内を通ってもらいたい いろいろな案を実行したら良い タクシードライバー不足はこれからも続く。空いている車の利用、ウーバー制度の利用。対応を早期に行うべき タクシーへのこだわりが強いように感じる。バスルート変更は金がかかると説明されが、バスルートの変更を 2 年も待つ必要があるのか バスが通っていても足の悪い高齢者も利用できるように バスルート、便数の見直し(バスの充実) 事業の手法の一部改善が必要(「空白地帯」の指定について説明が不十分) 制度を統一すべく検討が必要。空白地をなくす方策はないか。住民の意見を聴くのもいいが、町の方針を逆に住民へ要望すべき 高齢者には必要だが今後増加するのは確実なので対策が必要 お金のない人にとってはタクシー料金の半額補助でも辛い。北栄町では何人かで誘い合って乗り合いで行くのを手助けしておられるとか・・・ 乗り合わせやスクールバス、ウーバーなど様々なやり方を試して一番よい形にしたら良い。どんなやり方が一番いいのか、住民に聞いてみてもよい 助成制度は一本化した方がよい 自己負担と町の助成金の見直し 外出支援タクシー利用助成と一本化 <b>&lt; 審議員の評価・意見 &gt;</b> タクシー運転手の確保を大胆な発想で行う 複数の代替え交通案を複数の地域で 1 ヶ月程度試行し、令和 2 年度予算要求に盛り込まれるスピード感としようから得られるはずの確信を實現して欲しい ウーバー及び現存の車輛、人材の適正配置により、効果的、生産的な方法を早急に検討し結論を出す
	拡充	1 地域おこし協力隊をドライバーに(それなら 3 年で交代しても意義がある)

4-b 外出支援タクシー 利用助成	廃止	2	部落の中央にバス停を設けバス停まで歩いていただく 営業していた企業がコストがかかるためやめたのにコストが高いタクシーを使用するのはどうかと思う。審議員が言っていた協力隊や町職員が運転する方が良い バスのエリア、本数を増やした方が良い。バス停は、おおむね各部落の中央に設置
	現行通り	1	
	見直し	17 [4]	<p>琴浦バスを利用できる方は、バスに乗る。スクールバスの利用 細かな重複問題があることが分かった。ウーバーの利用検討 具体的な利用者がどのような方がよく分からなかった 介護の必要な人も利用できるように 空白地の解消の検討 制度を統一すべく検討が必要。空白地をなくす方策はないか。住民の意見を聴くのもいいが、町の方針を逆に住民へ要望すべき タクシー以外の手段も考えた方がよい 制度を統一すべく検討が必要。空白地をなくす方策はないか。住民の意見を聴くのもいいが、町の方針を逆に住民へ要望すべき 利用者からアンケートをとり、今後の改善に繋げる必要がある。町内移動も対象とすべき 乗り合いは、誰でも乗せてあげられるかという悩みます。事故、トラブル等を思うときちんとした制度にもらった方がどちらにとってもよい 何がこの課の事業なのか分かりにくい。サービスが重複しているようなので整理が必要 町外の医療機関へ行く場合、バスが通っている地域の高齢者はバス JR バスと不公平感がある 自己負担と町の助成金の見直し外出支援タクシー利用助成と一本化</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b></p> <p>新たなやり方を試行するとしたら、11月までに結論を出し、新年度に試行実施 複数の代替え交通案を複数の地域で1ヶ月程度試行し、令和2年度予算要求に盛り込まれるスピード感としようから得られるはずの確信を実現して欲しい ウーバー及び現存の車輛、人材の適正配置により、効果的、生産的な方法を早急に検討し結論を出す。障がい者の交通費助成を一体化した検討。本人、用途確認が可能か？必要か？要件の整理、単純化（所得による制限などの必要性も含む） ドア to ドアでなくても、自宅から最寄りの公共機関までの送迎で良いのでは？ 駅などのバリアフリー推進が遅れている可能性もあると思う。ついでの買い物にも制度を利用できるようにする。</p>
	拡充	2	買い物については、移動商店の導入（曜日を決めて、地域振興協議会へ行くようにすれば、人も集まる） 地域支援として何ができるか検討すべき。そのための財政的措置を充実させる。必要性はますます増えていく 一本化した方がよい
4-c 腎臓機能障がい者 交通費助成	廃止	0	
	現行通り	13	透析をしていないのでよく分からないが、助成はあってもいい 必要なので現行通り継続 支援は継続すべきだが、どのような形で支援するのはまだ考える余地がある
	見直し	8 [4]	<p>他の制度と統一を検討。実施のない町への聞き取り 交付要綱をもう少し簡素とすべき 助成対象項目（距離区分）が細かすぎるので見直し 助成金を距離に関係なく統一 透析の方は医療費も交通費も支援を受けておられるし、障がい年金ももらっておられるため、公平性がある？</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b></p> <p>3つの要綱（腎臓機能、重度障がい、作業所）は、令和2年度より統一 障がい者の交通費助成を一体化した検討。本人、用途確認が可能か？必要か？要件の整理、単純化（所得による制限などの必要性も含む） 透析の通院を整備した上で、透析以外と同じ助成にする 事業所主体の送迎も再検討できないか。在宅透析の導入</p>
	拡充	1	病気をもちながら働く人たちに頑張ってもらいたい

4-d 重度障がい者 タクシー料金助成	廃止	1	障がいのある方には税の減免などのサービスがあるため、額が多ければ必要と網が、500円と少額なため他の必要な施策に使う方がよい
	現行通り	10	支援は続けた方がよい
	見直し	11 [4]	<p>バスが利用できる人はバスを利用すべき 助成制度の利用者が少ないのもっと利用してもらおうべき 重度でなくても必要な人には利用できるように 他の制度と統一を検討 課税要件を設けるべき 車椅子の方とかもあって必要に思うが、ペースメーカー等で歩ける人と車椅子で歩けない人が同じ支援が必要か サービスの重複や一貫性がないので再度、見直しを検討 助成金を見直した方がよい</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b>          作業所への通所支援として重複してよいのではないかと 3つの要綱（腎臓機能、重度障がい、作業所）は、令和2年度より統一 障がい者の交通費助成を一体化した検討。本人、用途確認が可能か？必要か？要件の整理、単純化（所得による制限などの必要性も含む） 透析の通院を整備した上で、透析外と同じ助成にする</p>
	拡充	0	
4-e 作業所等通所障がい者 交通費助成	廃止	2 [1]	<p>事業所（作業所）に任せるべき 事業所が交通費を出すべき</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b>          作業所へ支援し、作業所から対象者へ交通費を支給してもらおう 事業所へ助成し、事業所から交通費を助成した方がよいのではないかと。</p>
	現行通り	3	現行通りだが、作業所に助成する方法について作業所との調整が必要
	見直し	17 [3]	<p>事業所に助成 利用者が少ないのはなぜか 障がいのある方への助成は必要 他の制度と統一を検討。事業所の車輛を使うなど工夫が必要 作業所に支払うよう見直し 作業所から支援が必要な方への支払いなどの見直し 利用者からアンケートをとり、効果について検証し改善に繋げる必要がある 収入も少なく、通うのに必要な支援だと思うので支払い方法に検討が必要（作業所へ補助し作業所から個人へ支払） 助成は個人ではなく会社に出してもいいのでは 作業所に支給する方法へ見直し</p> <p><b>&lt;審議員の評価・意見&gt;</b>          3つの要綱（腎臓機能、重度障がい、作業所）は、令和2年度より統一 作業所へ支援し、交通費を直接対象者へ支払う 自家用車での送迎に助成は必要か？</p>
	拡充	0	
(3) 現行通り又は拡充		4	基本現行通り。交通空白地タクシー助成については、公平性に配慮しつつ継続が必要。きめ細やかな対応が必要。交通空白地タクシー助成は近隣の町村に共通する課題であり、広域的な交通網システムを作る必要がある 助成制度がいろいろあり、わからない 無駄のない支援方法を願う。



# 令和元年度 琴浦町事業レビュー（2日目） 評価結果及び意見一覧

## 1. 実施日、対象テーマ等

実施日	事業名	町民評価員
【2日目】 令和元年 11月 10日(日)	社会福祉協議会補助金	19人
	シルバー人材センター運営補助金	19人
	商工会補助金	17人
	観光情報発信業務	17人
	白鳳祭	17人

## 2. 評価基準

評価	評価の選択基準（評価理由の例）
(1)不要・凍結	税金を使う必要なし（事業の廃止） 事業廃止を含めてゼロベースで見直す（事業の一時凍結） 事業の目的が既に達成されているため不要 事業予算を執行することが目的となっているため不要（手段が目的化） 事業の効果なし（薄い）・逆効果 サービス受給者の自助努力・自己負担 行政の役割終了、民間実施（税投入の必要なし）、他事業との重複 広域（国・県など）でのサービスであるべき など
(2)琴浦町改善	
(2-1)抜本的見直し	実態を把握すべき 効果が不透明 成果の捉え方を再検討すべき 事業の手法を大きく見直す必要がある 民間委託の実施・拡大をすべき（指定管理者制度を導入すべき） など
(2-2)一部見直し	継続すべきだが、規模を縮小すべき 事業の手法の一部改善が必要 受益者が負担等をすべき 入札等における競争性を強化すべき など
(3)現行通り又は拡充	大幅な見直しは必要ない 効果があるため、より注力すべき 今までのやり方のままで、さらに事業費を増額すべき など

## 3. 評価結果

[ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

事業名	(1) 不要・凍結	(2) 見直し	(2-1)	(2-2)	(3) 現行通り 又は拡充
			抜本的見直し	一部見直し	
社会福祉協議会補助金	0	16 [4]	4 [3]	12 [1]	3
シルバー人材センター運営補助金	2	13 [4+1]	5 [2+1]	8 [2]	4
商工会補助金	1	12 [4+1]	3 [2]	9 [2+1]	4
観光情報発信業務	1	15 [4+1]	11 [2+1]	4 [2]	1
白鳳祭	1	8 [4]	2 [4]	6	8

【2日目】令和元年11月10日（日） [ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

社会福祉協議会補助金		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	0	
(2)見直し	16 [4]	
(2)-1 抜本的見直し	4 [3]	<p>社会福祉協議会でなければできない事業なのか？そうでないのか？整理を抜本的にするべき。建物の管理（町への移管、浦安地区公民館との複合化）などは具体的であり、公共施設の整理、統合などもあわせて検討が必要 福祉センターの管理は社協以外がやっていく方がよい。事業の手法は、「社協独自」、「町との連携」、「町からの委託」をはっきり分けた方がよい 社協の施設は外側からしか見たことがないが、他に利用できることがあれば大いに活用したら良い（学生が勉強できる場などいろいろ） 事業分別が明確ではない。「町からの補助」、「町からの委託」をはっきりする必要がある。成果及び効果が分かりづらい。</p> <p>審議員の評価・意見 事業の区分け（町の役割 = 委託、町と社協の協働 = 補助、社協の役割(独自事業) = 0）。センター施設の町への移管 補助対象を人件費より、事業成果単位に見直すべき。社会福祉センターを町へ移管（後に有効利用） 補助金の大きな部分を占めている社会福祉センターは町に移管し、浦安地区公民館の移設を含めて有効利用。事業費補助にシフト。事業によっては委託事業への変更も必要</p>
(2)-2 一部見直し	12 [1]	<p>建物の管理費が多く占めていることに驚いた。公民館との共有も今後、人口が少なくなる時代には考えなければならないかも。町民の9割が何かの形で関わる社協は大切な存在であるが、町の責任である分まで任せられていることもあった。補助から委託とすることで、より活動しやすくなることもあるのでは。福祉センターの施設管理については、見直しが必要。「社協でなければ」と言われたが、他の社会福祉法人や事業所でもできることはあると思うので、そこはもっとオリジナリティを考えて欲しい。事業も明確化して地域や他でしていることの取りまとめや協力体制を整えたり、「社協だから」ということを明確にして、地域に入ってもらうのは大切。社協の方々が頑張っているのはよく知っているのもったいないと思った。社会福祉センターの有効利用をするべき（一部改善が必要）。地域福祉に係る事業のうち、町と社協の区分けをするべき(補助金を減らすことができる) 人件費だけの補助ではなく、事業の補助にウェイトを置く。事業を進めるにあたって、人はどれくらい関わるかも入っていると思う 福祉対策について町と社協がもっと話し合う必要がある 障がい者の長期入院、転院時の必要書類作成など専門性が必須である。町と社協だけで対応を考えるのは限界があるのでは？得意分野を持つ民間団体を育成し役割分担する発想は存在しないのか コストの適切な管理（町はどこに補助をすると目的に対してどの程度効果があるのかを分析）。事業についての整理が必要 センターの管理体制は見直すべきだが、施設を十分に活用するイメージ、メリットがあまり思い浮かばないため、町有施設とすべきか悩む 社会福祉センターの管理運営を町に移管又は町へ貸して多機能施設にしていくべき 公共性の高い事業でもあり、利用者も多数になりますが、利用者負担の面も含め、事業(活動)の見直し。ボランティア活動や民間企業への委託を進めて行ってはどうか 障がいのある方の送迎を止めたりとか大して協力してくれていないのに町が補助する理由が分からない。管理や維持に費用がかかるのであれば、浦安地区公民館と統合すれば良い。</p> <p>審議員の評価・意見 補助の考え方について、人件費補助をできる限り減らし、事業費補助のウェイトを高めていく努力。社会福祉センターの所有を社協から町に移管し、公共施設全体の見直しの中で考えていく。防災福祉マップは、社協補助だけではなく、行政として委託事業として位置付け。</p>
(3) 現行通り又は拡充	3	<p>社協は今まで実施してきた介護保険事業、介護予防事業などの事業撤退。収入にならない事業は他に回すのではなく、町が中心となって補助金も使って行ってほしい 民間とは異なる福祉サービスの内容がよく分からないので、より明確にして住民に知らせるべき。そのためにもさらに充実、発展させるべき。高齢化社会にあってたいへん大切な分野である。</p>

【2日目】令和元年11月10日(日) [ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

シルバー人材センター運営補助金		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	2	行政の役割としては必要ない。民間で実施し、それに補助金を助成。社会として高齢まで働けるしくみづくりの方が大切。
(2)見直し	13 [4]	
(2)-1 抜本的見直し	5 [2+1] (コーディネーター含)	<p>作業内容のニーズの把握と新規会員確保のしくみづくり。民間運営にした方が良いかも。需要と供給のミスマッチの解消。シルバー人材センターの会員になることの社会的イメージの把握。会員の友の会、利用者の友の会の運用を考えてみては？働くことと地域奉仕など60代以降の世代の活躍をトータルでアプローチすべきではないか(行政の縦割りを超えて) ニーズは十分にある状況なので、まずはシルバー人材センター、ハローワーク、住民、地域福祉協議会、有償ボランティア等で協力しあってニーズとのマッチングをすべき。シルバーの方々の働く場をシルバー人材センターに一元化して、総合的な制度再設計が必要ではないかと思う。収入確保による事業拡大を目指さなくても良いのでは 目的から見直すと再雇用などの制度で定年がほぼなくなりシルバー人材の減少が起こっても、当初の目的は(国の制度側で)達成できているため問題が無い。従って現体制のまま維持する理由は弱い。草刈りなどの需要の高いものは別枠にして、若い人材も混ぜて解決の方が時代に沿うのではないかと。事業としては素晴らしいが、民業の圧迫にも配慮が必要。庭師、表具師、建具師など次世代の担い手育成の機会損失の原因になっているかもしれないので、支援を検討。補助金を減らして独立。若者の労働機会も考えて欲しい 少子高齢化時代のシルバー人材センターの役割・機能について、ニーズ調査による時宜に合っている取り組みが必要。高齢者の活躍の場を広げるべき。</p> <p>審議員の評価・意見</p> <p>シルバーのあり方(方向性)をしっかりと検討すべき。年間を通した安定した業務を求めるのであれば、ハローワークとの連携も視野に入れてはどうか 行政としてのシルバー人材センター位置づけを明確にすべき。制度に沿って行うという発想を変えていく。福祉に特化していくなら社協との整合性を考える。シルバー人材センターの位置付けは全国で大きく異なっている。再度、町として考えていくことが必要。</p>
(2)-2 一部見直し	8 [2]	<p>全て広域化や民間業者への移管は難しいが、風土的に地域性で協力的なところもあれば、無関心な地域もあるので、できる作業を絞ってサービスを続けてはどうか。民間にできることもたくさんある 社協がヘルパー事業をやめてしまうのであれば、民間、シルバーにお願いする方法で対応するのが納得いかない 仕事の需要があっても対応しきれない現状であるならば、会員の増加をする必要がある。増加の賃金改定、仕事分野の多様化 働き方や料金について見直すことも必要。登録者の集め方も待っているだけではなく、他の方法も考えてみては(頼まれたら、やろうと思う人も)。NPOは簡単では無いと思うし、シルバーだから任せられるということもある。ハローワークや有償ボランティアとの連携も良いと思うので、もっと考え方を考えてみる必要もある。シルバー人材センターはありがたい事業です。税金を使っているのも分かっています。それで両方が幸せなら一番ですよ 料金単価を高くしても継続すべきだと思う ハローワークとの連携など体制を変えてみるといいかもしれない。ニーズを知る意味でも、ハローワークとの情報連携が必要 人数が増えないのは、公的年金が少ない人は年間就労を希望している人が少ない理由でもあると思う。シルバーに登録する人は、社会との繋がりを求める人でちょっと小遣いを得られたら良いという人ではないか。賃金を引き上げれば登録が少しは増えるかもしれない。 いまでも高齢者の多い町で、これからも高齢者が増えるのでシルバー人材センターの制度は必要。年の若い方に草刈りとか何かの資格を取らせてあげてもいいかも。仲良しグループに任せただけではダメで、別れて作業してもらえば良い。</p> <p>審議員の評価・意見</p> <p>作業単価の見直し。町民のニーズ機会損失をなくす。請け負うシルバー人材センターの業種の幅を広げる ある程度市場原理によって料金設定(料金の見直し)。シルバー人材センターの将来の方向性を見出す時期ではないか。</p>
(3) 現行通り又は拡充	4	定年延長や再雇用が今後、増加する中で会員数は減少するが、特に荒廃農地が増える中で、シルバー人材センターは貴重である。より一層会員を増やす方策が必要 会員拡大。サービス料金の見直し 効果があり、会員の加入の募集をするべき 現行通り(時期に応じて料金の見直し)

【2日目】令和元年11月10日（日）

[ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

商工会補助金		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	1	事業者の努力が足りない。事業主、従業員が一丸となって頑張るべき。
(2)見直し	12 [5]	
(2)-1 抜本的見直し	3 [2]	<p>効果が不透明でよく理解できない 会員数増を目標にする理由や町としての企業支援の位置付けなど、不明確な部分が多い。「会員のための商工会」とするならまずその実態を把握するべき。 消費者的にはイオンや業務用スーパーが町にできて欲しい。雇用も町外からの来客も増える。</p> <p>審議員の評価・意見 町と商工会の役割分担を明確にし、成果をしっかりと把握できるように。補助金のしくみを分かりやすく（対象となる人件費流れ、根拠）。町の事業所が何に困っているのかを把握して協働して取り組むこと 県内高等教育機関学生のインターンシップをして人材不足対策。人件費補助の支出対象は商工会連合会への補助が正しいのではないかと？商工会と町の支援方策のすりあわせが必要。</p>
(2)-2 一部見直し	9 [2+1] コーディネーター	<p>子どもが就きたい職種に就職するため県外に出るのは仕方がない 事業の手法の一部改善が必要 補助金の対象となっている商工会の成果検証が十分でないため、その検証について町が率先して商工会へ促すことも必要かと思う。廃業数比較や若者の定着率の把握。PDCA サイクルのCがまったく機能していないように思える 商工に関する専門性は商工会に任せる。役場は組織体制などへの支援を行うべき 後継者不在の事業者が多い中、後継者確保のための行政支援が必要。商工会の指導の中に新規事業の提案はできているか？行政の人材確保、商工会の経営指導強化が不可欠。途絶えさせてはならない伝統的製造品の技術者の確保は商工会と行政が連携して取り組むべきではないか。商工会連合会の下での活動となると琴浦町商工会の独自性は確保できるか 町のために補助が必要 人件費は見直し 経営改善普及、地域経済の発展も重要なことですが、将来の琴浦町商工業の発展に寄与する人材（起業家）を育成する組織を設けたらどうか 商工会に入る理由とその利点はたしかにあり、継続すべき。しかし、加入する事業者の取り巻く状況が変化しつつあるので何かしたら目指すものや形態を変化させていく必要がある</p> <p>審議員の評価・意見 現状では650万円の投資効果が把握できない。毎年度、補助額が定額になっている。事業所数に応じて商工会連合会に人件費を負担するなど仕組みの問題もあるが補助の仕方の見直しを検討する。町内の会員と非会員の売上推移や廃業件数を見ることで商工会のメリットが見えてくるのでは？ 町の事業との役割分担をより適切なものにしていく必要がある。人手不足については、労働力の取り合いだけでなく、持続可能なあり方を探っていく必要がある。</p>
(3) 現行通り又は拡充	4	現状で良い 商工会は地域経済の見張り番なので納税者を守る意味でも支援の継続が必要。新規事業者の応援も頑張っていたきたい。 町の活性化、イメージアップ、働きがいの育成のためには、商工会の負担額の決定など再検討して、継続が望ましいと考える。一次、二次、三次産業とも地域活性化にはとても大切。

[ 2 日目]令和元年 11 月 10 日(日) [ ] 書きは審議員(外部有識者)の評価。審議員評価が同数の場合、コーディネーターの評価を足し、外部有識者の評価結果としています。

観光情報発信業務		
評価	評価に添えられた意見	
(1) 不要・凍結	1	観光客を増やしたいのに町内にしか観光便りを配っていない。観光協会の職員は、観光を分かっている人にしてもらった方が良い
(2)見直し	15 [ 5 ]	
(2)-1 抜本的見直し	11 [ 2+1 ] コーディネーター	<p>組織的にすっきりさせる(補助事業へ)。組織内に民間の活力を取り入れる(職員)。観光協会の事務所の位置を知らない人が多い。鬼太郎ロードの通りの店は閉まっている店が多いが、年々、観光客は増えており、全国への宣伝が上手なんだと思う。塩谷定好写真記念館は、古い空き家となっていた本家を直し、地域の方々が協力して、活が見られます。金を使わなくてもやり方次第 福嶋先生がおっしゃっていた「観光の目的を関係人口の増加にすべき」などの考え方にシフトすべきだと思う。例えば町民の特性をアピールするなど、情報発信の内容が変わってくる 組織的に行政と繋がらず、行政の仕事と変わらないため、切り離して民間のノウハウが必要。観光便りは、目的として外に向けたものであるのに、内に向かって配っているが、もう一度、目標や目的を定めるべき 観光情報発信は観光協会自身の目的のため、委託から補助へ見直すべき。観光協会だからできることの棲み分けをしっかりとすべき。情報発信に留まらず、DMO 等の仕組みの活用といった内容の業への拡充 町内の PR や資源などの特徴が曖昧である。琴浦町はどういう町なのかを分析し、他町との差別化を行った上で戦略戦術を練り直すべき(手法を大きく見直す必要あり) 観光協会と町との位置関係が不透明。体験型が望ましい(ちくわ作り、まんじゅう、ブルーベリー、梨)。パンフに行きたいと思う場所がない 観光協会の職員は、長年行政に関わっていた人では役場目線でしか物事を見られないのではないかと。もっと一般住民目線で物事を見られたり柔軟な発想を持った人にやってもらいたい 役場の課長の退職後の席であってはダメ お祭り感がない。めったにない山陰道の道の駅琴の浦ですが、もう少し大きい方がよかった。食堂以外にも、外で食事ができるスペース、ファーストフード的なお店など、週末だけでも立ち寄ってくださったお客様が疲れを癒やし、楽しんでいただける工夫が欲しい。八橋の中井旅館を再開していただきたい。</p> <p>具体性、戦略性を明記した観光ビジョンが必要。琴浦町単独エリアの観光戦略の組み立てが必要。琴浦町の入り込み客の内容分析と共に、着地対応または通過客対応の多様な戦略が必要になる。道の駅での立ち寄り者の聞き取り調査等により真の琴浦町の入り込み客のデータを整理する 町民の理解も含め、会費の増額や一般町民や民間の方に自由に会員になってもらえる制度づくりを行って意識の高まりを期待する。それが成果として現れれば、補助金の拠出も減っていくのではないかと もっと大きな企画を行いクラウドファンディングの活用も考えられては? 審議員の言うとおりターゲットが違っているように感じた 会費及び寄附金で行う事業は、基本的に町内・町民に対するものとし、町委託料分については、県、国内、海外に対する PR を行う経費に使う。継続して事業を続けて欲しい。</p> <p>審議員の評価・意見</p> <p>地元の魅力は何としているのかわからない。Web サーバーのアクセス解析などテクニカルな分析に基づくニーズとターゲットの絞り込みが必要。観光協会職員 3 名では難しい 補助事業に変える必要がある。協会スタッフや窓口にもっと民間感覚を持った人や観光ガイドの経験者などを迎え入れて欲しい。お金を落として欲しいという発想はやめたい</p>
(2)-2 一部見直し	4 [ 2 ]	<p>道の駅も人気ですし、来客数も増えているようであれば、次は琴浦ファン、リピーターを地域に増やす お金を落としてもらうだけでなく、本当に琴浦町を応援する人に来てもらう</p> <p>審議員の評価・意見</p> <p>「委託」から「補助」への変更が必要。施設管理を委託した方が良いのでは? 鏝絵の保存など将来を見据えた対策にも注力。道の駅琴の浦にも鏝絵を展示しては? 観光協会には、町内の旅行好きな人材を加えてみては? 観光戦略を策定するにあたって琴浦を中心に考えるのが明確にしていく。インバウンド対策をするにあたってどのくらいの外国人観光客が増えているのか可能性があるのかの把握が必要。観光資源を活かす時には、外にだけ目を向けるのではなく、中の人々が魅力を感じていることがにじみ出ることを考えて欲しい</p>
(3) 現行通り又は拡充	1	

白鳳祭		
評価		評価に添えられた意見
(1) 不要・凍結	1	いったん凍結し、「祭」のあり方を問い直していくべき。行政におんぶすることは止めて、琴浦の祭りはどうしていくべきかゼロからやり直すべき。行政はサポートに徹するべき。
(2)見直し	8 [4]	
(2)-1 抜本的見直し	2 [4]	<p>町補助金を投入して祭りをするのは原則ダメ。実行委委員会または観光協会が主催なのが本筋。白鳳祭のネーミングから協議会の主催とかにする案も検討すべき 琴浦3大祭り位置付け琴浦町の魅力をPR 実行委員会はそれぞれの祭りに設けるが、統括的な体制として琴浦町、観光協会、商工会で構成し企画する。国の特別史跡斎尾廃寺の歴史文化をPRする。波止の祭りとは白鳳祭の開催時期が1週間程度しか違いが無いため白鳳祭を9月下旬頃にしては？来場者の構成（町内者、町外者、大人、子どもなど）を把握し、コンセプトの明確化が必要。安全性を確保するために行政の役割が不可欠であり、中途半端な行政の立ち位置ではなく、祭りの企画運営を役場も一体的に実行委員会として取り組む</p> <p>審議員の評価・意見</p> <p>実行委員会のノウハウを継承。中学生などの若者の実行委員会への参画。旧2町の夏祭りの各コンテンツの特色化。役場職員としても実行委員会への参加。補助金から負担金へ変更。「3大祭」化今年度からの大きな変革の流れは素晴らしい。単に祭りが円滑に進むことだけではなく、住民と行政の関係の構築の観点からも重要。行政は庁内の祭りのコーディネートに重点を置き、白鳳祭はさらに住民主体になるよう進めていく。副実行委員長の熱意と行動力に敬服。「人が変わると商品が変わる」の意味を改めて感じた。 実行委員会への「補助金」は「負担金」とする。民間主導にシフト 住民、民間が中心になり今の抜本的見直しを発展させて欲しい。実行委員会に役場も入る。補助金から負担金へ。「3大祭」化を目指すのも素晴らしい</p>
(2)-2 一部見直し	6	<p>実行委員会がこんなにうまくやってこれたとは思いませんでした。「行政実行にはクレーム有り、民間にはクレーム無し」本当にそのとおりだと思います。出店料についても1万円から4万円に実行できたのも町民主体の実行委員会だからだと思います。 寄附や物品の売上げなど収入を増やす工夫をすべき。町の税金負担を少しずつ減らしていくと良いと思う。小中学生らが大人になっても心に残る祭りにできたらよい。都会の子に比べて楽しみの少ない子どもたちが喜ぶように 民間主体にもなったし、町民の意思でできるのなら、他の市や町とかの祭りと同じ日なので、毎年8月の第1日曜とかこだわらないで開催日を変えてはどうか 実行委員会に行政も混ぜて運営に参加する。実働している団体が少なく感じた。特に青少年といった若い世代を積極的に巻き込み、後の世代にも繋げていくのが理想だと思う 催し物は住民主体が望ましく、町としては寄附金として拠出した方が良い。令和元年のように民間の実行委員会に任せましょう 今年から住民主体の祭りになったので、この流れが止まらないように続けてやって欲しい。副実行委員長が持っている熱意、想いを下の年代も巻き込んでいけるようなことも考えて欲しい。町はこれまでどおりお金を出してください。</p>
(3) 現行通り又は拡充	8	<p>こどもの思い出づくりに祭りは大事だと思う。お金のことも大事だが、祭りの内容も大事かと。見ている人誰もが楽しめる出し物。出ている人もしくはその身内なり、仲間の人だけで盛り上がっている出しものだけであれば、目的が「花火だけ」となる。広い年代、外から来られる人も楽しめて、来年も楽しみだと言ってもらえる大イベントになることを望みます 鳥取市出身で子どもの頃テレビで傘踊りを見て隣のお姉さんが映っていて、自分も大きくなったらあそこで踊りたいと考え、県外に就職しようとは思わなかった。卒業後、県内に就職して結婚して琴浦に移るまでは、毎年参加し踊りました。白鳳祭も毎年実行委員会として参加し続けたいと思う若者がいれば地元に残ってくれるのでは？年を取ると地元へ関わりお礼をしたいと考えるようになりました。退職後のやりがいをも作っているところです 祭りに若者の力が集まる姿は見ていて気持ちのいいものです。どうか引き続き、この勢いを保って、中学生や高校生に地域や多世代の人に関われることで誇りを持てる祭りに。素晴らしいきっかけになれると思います。「琴浦3大祭」いいですね 自分の部落でも毎年夏に祭りをやっていますが、部落民が一丸となってやっている。町の補助は一切望まず、部落一丸となって続けています 大幅な事業の見直しがあったばかりなので、少し様子を見るのも良い。町内に1つくらいは他町に誇れるイベントがあっても良い。琴浦町の財政見通しは厳しいようだが、それは行政のスリム化（庁舎3つを一箇所に集中など）すれば良いと思う 新体制による例が今年しかないため、これからの継続性に焦点を置いて考えていたが、副実行委員長さんの熱い想いとその考えから安心であると思う。だが、副実行委員長だけの意見にならないように注意すべきである 大幅な見直しは必要ない。効果があるためさらに拡大すべき 体制が変わって1年目なので善し悪しを見て行くには、現行の体制で状況は見るべき。制度的には現状のままで、その中に関わるステークホルダー（住民・行政）の長所を活かした役割分担または協力の方法を探っていくことは必要であると思う。</p>